

琉球大学学術リポジトリ

創刊によせて

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 健 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017211

創刊によせて

宮城 健*

随分古い話で、記憶も甚だ不確かであるが、「バッタの異常発生によって、或る穀倉地帯が潰滅的打画を受けた。」こんなニュースがあったように記憶している。またたくまにバッタが穀草を食い盡し、大きな被害を与えたことを報じただけで、バッタの結末に就いては何等の報道もなかったように思う。多分バッタは其の後、食い物を失って死滅したのかも知れない。これが若し不幸にして全地球的規模の出来事だったら、と思うと背筋が寒くなるのを覚える。

世界の人口はバッタ程ではないが、着実に増加の一途を辿っており、文明の名のもと、エネルギーの消費を急速に伸ばしている。其の結果、大自然が何万年という気の遠くなるような極めて長い年月をかけてつくり上げたエネルギー源を吾々人類は今消費し盡くそうとしている。特に人口が急増している発展途上国の文明化が進むと、エネルギーの消費が爆発的に上昇するであろうことは想像に難くない。

吾々人類の先祖は永い間、其の食糧を全く自然に依存していたようである。従って居住地周辺の食物を食べ盡くすと、食糧を求めて遠くまで足をのばすか又は居住地の移動を余儀なくされたことであろう。然し人類はこれ等の難儀や困難から見事に脱却する方法を考えだした。約5・6千年前から始められたと云われている農耕と牧畜がそれである。即ち人類は食糧の自給自足を見事にやり

とげたのである。このことによって、人類は水の便のよい、快適な生活環境を備えた土地に定住することを可能にし、生活の集団を大きくし、人口の増加を可能にしたのである。人類の歴史には幾つかの素晴らしい出来事があった。人類が始めた農耕と牧畜も、火の使用、石器や金属器具の利用、産業革命等と並んで、人類を今日の繁栄に導いた特筆すべき出来事だったと云えるだろう。

自然がつくりだした資源を利用することは大事なことであろう。深海にねむっている資源の開発を進めることも結構なことである。然し其等資源は総べて有限であることを忘れてはいけない。二度に亘る石油ショックで「資源は有限なり」と云われてから既に久しい。人類が5・6千年前になしとげた食糧の自給自足にならって、エネルギー源の自給自足を真剣に考えるべき時であろう。地下の埋蔵資源を消費し盡してから「さあどうしよう」では人類も異常発生したバッタと同じ運命を辿ることになりかねないだろう。

エネルギー源の自給自足の方策として、バイオマス研究は人類の永遠の繁栄のために極めて大事な事柄の一つであるにちがいない。暖かく、多湿で、植物の生長に都合のよい沖縄に南方資源利用技術研究会が発足し、着実な発展をなしつつあることは、人類の将来のため誠に慶賀に堪えない。研究会の今後一層の発展と会員各位の御健闘を切に希望する。

* 前琉球大学学長。琉球大学名誉教授